

研究所だより

第397号
2019年 2月20日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“どこかで春が 生まれてる どこかで水が 流れ出す
どこかでひばりが 鳴いている どこかで芽の出る 音がする
山の三月 そよ風吹いて どこかで春が 生まれてる”
「どこかで春が」 日本の歌曲 1923年



「梅一輪いちりんほどの暖かさ」と言いますように、梅の花も咲きほころび、木々では小鳥がさえずり、少しずつ春を感じさせてくれるようになりました。

～自ら学ぶ姿を見せる人が本当の教員～

大村 智 氏（北里大学特別栄誉教授）

（月刊日本の教育 6月号から）

日本社会が高度化・多様化する中、子どもたちの「人間力を育てて欲しい」と、大村 智・北里大学特別栄誉教授は現場の教員に呼びかける。高校の教員を経て研究の道に進み、ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村氏。自身の経験を踏まえて、「自ら学んでいる姿を見せていく人こそ本当の教員」と語った。

「人間力」とは、思いやり

Q： 大村先生は、大学や研究室などで多くの若者を育てていらっしゃいました。また、高校での教員の経験をお持ちです。これまで、人を育てるうえでどのようなことを大切にされてきたのでしょうか？

A： たとえ、知識をもっている、人物がだめではどうしようもありません。教員は「人をつくる」ことを心がけてほしい。知識・技術とともに、人間として大人になって良い社会を作っていく人物を育てること。それは人間力を育てることです。

Q： 「人間力」とは具体的に、どのような力でしょう？

A： 論語に、「子貢問いて曰く、一言にして終身之を行ふ可き者有りやと。

子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ。」とあります。

「恕」とは、思いやりのことです。人間として思いやりをもつことを心がけることが大事だということです。思いやりの心をもつと周りがついてきます。それが人間力。磁力と同じで、人間がしっかりしていれば、多くの素晴らしい人が集まってくる。尊敬される人物をつくるということです。品性、品格なども、人間力に含まれるでしょう。「勉強はできるけど品が無い」と言われるようでは困ります。



Q： 「人間力」を育てるためにはどうすればよいとお考えですか？

A： 自然科学を研究してきた人間として、私なりの考えがあります。それは、子どもに自然の魅力を知らせてあげることです。寺田寅彦は随筆に「科学者になるには、自然を恋人としなければならない。自然は、やはりその恋人にのみ真心を打ち明けるものである」と書いています。まさに科学そのもの。

海や山、それが無理なら公園でもよいので、大人は子どもが植物や昆虫、動物、水、雪、土といった自然に触れる機会を増やしてあげてほしい。そこで湧いた興味や疑問こそがあらゆる自然科学の出発点になると思います。

情操教育も大切です。情操教育とは、広辞苑には、「創造的・批判的な心情、情緒的・自主的な態度、豊かな感受性と自己表現の能力を育てることを目的とする教育」とあります。特に情緒は大切です。情緒などと言うと、文学的な印象を受けるかもしれませんが、理科教育でも情緒の有無で理解度が変わってきます。たとえば美術と理科も相反するものではなく、相乗的に教育されていくものです。芸術を楽しむことによって情緒が高められ、品性が陶冶されるのだと思います。

17～18世紀の哲学者、ジョン・ロックは「子どもをなるべく自然のままに育て、過保護にしないことで、秩序の感覚、恥の感覚、自然の美しさに対する感覚などを鍛えるべきである」という教育論を述べています。先生方がこういう感覚をもっているかどうか、とても重要なことです。

子どもと一緒に進歩する

Q： 子どもたちに、そのような「人間力」を育むために教職員にはどのようなことが必要ですか？

A： 教員をしていた私の母が、「教員の資格は自分自身が進歩していることである」と言っていました。ここでいう進歩とは、専門の科目の知識・技術の進歩だけでなく、人間としても進歩していることだと私は思っています。絶えず自分自身が立派な人間になるべく努力していることが、本当の教員の資格だと。「実践躬行」これが私の信条です。教員は言うだけではだめ、自分でやって見せなければ。先生方も日頃から、自分を磨くために勉強会や研究会などに取り組みながら、子どもを教えていくことが大事。人間をつくるという進行形の中で教えていくことです。子どもたちは大人の背中を見ますから、そこで育っていくのです。黒板を前にいくら良いことを言っても、やっていることがどうしようもなければ、子どもたちは敏感に感じる。子どもたちが「品の良い先生だな」と思うような人間力を身に着けること。そうすれば子どもたちもついてきます。大事なことは先生自身が、日頃の生活の中で実際に自分がやって見せること。自ら学んでいる姿を見せていく人こそ本当の教員です。

そして、一方的に子どもたちに教えるのではなく、子どもからも学ぶことがある、子どもと一緒に勉強する、という気持ちでいることも大切です。教わる方も進歩していくという気持ちでなければいけません。先生も子どもたちも、お互いに刺激しあう、これがずっと続いていくのです。私は今でも墨田工業高校で教員していた時の教え子たちと付き合いがあります。今や「終身友達」です。そして、今でも生徒からも学んでいる。それも一つの進歩です。

道元禅師の言葉に「正師を得ざれば、学ばざるに如かず」というものがあります。その先生と付き合うことによっていろんな人間力が身につく。教わる方も良い先生につくことが大事だし、教える方も正師と呼ばれる先生にならなければ。専門の話もできるけれど、人間的にも魅力がある、それが正師だと思います。

～あすなろネットワークの取組～

1月24日(木)第5回あすなろネットワークを開催しました。初めに「何回言ったかな?」「ぎょうざじゃんけん」の2種類のアイスブレイクを行いました。「何回言ったかな?」は今年度購入した書籍「ワーキングメモリーとコミュニケーションの基礎を育てる聞き取りシート」を活用しました。本来は支援を必要とする子どもへの聞き取り訓練なのですが、提示の仕方でも誰もが楽しめる教材に変わることが体験してもらいました。学級活動や朝の会、帰りの会でも使え、聞き取りの訓練にもなります。自分の思っている数を誰かと確認したくなると自然と対話も生まれます。

次に、市内の小中学校の1,2学期の欠席状況について、昨年度と比較して報告させていただきました。3日以上欠席、10日以上欠席は小学校で減少しています。中学校については昨年度と大きな違いはありませんでした。

報告後は今年度の年間総括と来年度に向けての話し合いを行いました。「分かっているようで分かっていないことが多く、研修で気がつくことがある」「多角的な見方に慣れるためには繰り返し研修することが必要」「研修内容が充実しており、職場で伝達講習をしている」「人数の少ない職場では一人が抜けると大変なので研修回数を4回にしてもらえたら」等の意見が出されました。回数については、減らさない方がいいのではないかという意見が多くありましたので、検討させていただきます。また、県外からの講師の時などは、いい話が聞けるチャンスなので、小学校を使わせてもらう等、会場も検討してみてもどうかという意見もいただきました。会場についても、検討させていただきます。

高知県では、自閉症・情緒学級に在籍している児童・生徒数が年々増加しています。支援学級に在籍していなくても、クラスには支援を必要とする児童・生徒はいます。少し工夫をするだけで困り感を減らすことができますので、これからもニーズに応えた発達障害等の研修を計画立てていきたいと思っております。



～感想～

- ・今年初めて、あすなろネットワークに参加させていただき本当に良かったと思っています。専門の先生方の講話や自己開示など新しい発見があったり、改めて大切だなと感じたりする毎回でした。今後、学校に持って帰って職場にどんどん伝達していきたいと思っています。ただ、なかなか資料を増し刷りしてお渡しすることぐらいしかできませんが…。分かったつもりでも伝達するとなると自分がどれだけ理解不足なのかということが分かります。本当に難しいものですね。
- ・全回出席させていただきました。どの研修も大変参考になりました。第3回の内容から自分のあり方を考え、そこから周りへの関わり方を改めて考えるきっかけになったり、第4回の疑似体験などから改めて子どもの視点を見つめなおすきっかけになったりしたと思います。ありがとうございました。
- ・実際に疑似体験をしてみて、子どもがどのように不自由を感じているのか、子どもの目線に立つて考えることができました。また、一人ひとりの個性があり、同じ障害にしても特性が違うということを改めて理解することができました。また、演習やグループ協議などを通して他の先生の生の声を講師の先生の話と合わせて聞くことができ、この1年で得られるものが多く、あすなろネットワークの会に参加できてよかったと思いました。
- ・年々内容が充実されてきていると感じます。今年は特に特別支援教育に力を入れてくださっていたように感じます。学力学力で、どこの学校も教師も子どもも追まわられています…。特支の子どもたちが大切にされる学校をこれからもつくっていく必要があると思いますので、来年も深い内容～充実した内容をお願いします。ありがとうございました。

☆書籍・教材の紹介☆

- ① ソーシャルスキルトレーニング絵カード
幼年版7「ルールやマナーの理解(言動と反応の対比)」
- ② 配列絵カード「じゅんばんわかるかな?ありさん・ぞうさん」
- ③ アンガーコントロールトレーニングキット
- ④ 改訂版「楽しく学ぶ、日常生活絵カードS」
- ⑤ Act Voice Pen
- ⑥ リーダーズ・ライブラリ Vol.10
「教師の働き方とメンタル・マネジメント」(ぎょうせい)



① ソーシャルスキルトレーニング 絵カード
(Act Voice Pen対応)



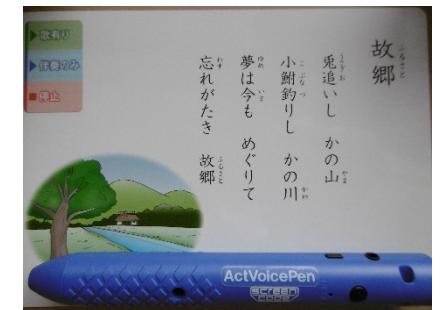
② 配列絵カード じゅんばんわかるかな?ありさん ぞうさん



③ アンガーコントロールトレーニングキット



④ 楽しく学ぶ 日常生活絵カードS
(Act Voice Pen対応)



⑤ Act Voice Pen



*Act Voice Pen
簡単操作で手軽に音声再生、録音できます。
音声ペンで、音声ペン対応絵カードの音声マーク等に
タッチすると、絵の名称が発音されます。